

# 『協働』の視点から被災者支援のあり方を学ぶ

令和 3 年度 被災者支援を考えるボランティア講座『つながり減災塾』

3月19日（土）、中津市教育福祉センターにて「令和3年度被災者支援を考えるボランティア講座『つながり減災塾』」を開催しました。この講座は、災害時に被災地支援を行う団体などを対象として、災害ボランティア活動について学びを深め、様々な団体の横のつながりをつくっていくことを目的としています。



当会を含め9つの団体・部署から計34名参加がありました。



講師の園崎秀治氏。制度や被災地の現状なども詳しく説明してくださいました。

本講座の講師として、現在全国の様々な場所で被災地域支援に関する講演を行っている「オフィス園崎」代表の園崎秀治氏にお越しいただき、『協働』が生み出す被災者支援のカタチ」と題してご講話いただきました。園崎氏は元全国社会福祉協議会の災害担当として、数多くの被災地で災害ボランティアセンターの支援に携わっておられました。その様々な支援の経験に基づいて具体的なお話をしてくださり、特にここ数年のコロナ禍での被災地支援活動の実態や、「コロナ禍だからこそできたこと」については、今後の災害支援のあり方を考えるヒントとなりました。また、災害時の支援の三原則と言われる「被災者中心」「地元主体」「協働」についてもお話しいただき、「何のため、誰のための支援なのか」という基本に立ち返り、共通した認識で支援を行っていくことの大切さを改めて学びました。

講座の後半では5つのグループに分かれ、参加者が所属する団体等が行っている普段の取り組みや災害時の支援活動について情報交換をしました。今後取り組みたいことなども話しながら、「一緒に協力しながらできそうですね」とお互いを知る中で連携の可能性も感じられる機会となりました。



グループワークの後、各団体の代表の方に取り組みを紹介していただきました。

災害時に支援者同士の協働を実現するためには、普段からの関係性が重要となります。今後も講座などを通じて、日常からの顔の見える関係づくりを進めていきます。